



皆さん、こんばんは。本日、ほんとにひっさしぶりに、ご一緒に黙示録をお分かち出来ることを嬉しく思っています。気のせいかわ、前の2列空いてるのは飛沫を避けてのことなのかなと。でも、アクリル板あるので、マスク無しということできさせていたきたいと思います。

ところで、間もなく東京オリンピックがあります。オリンピックというと、やっぱり私は、自分がやったこともあって柔道に興味があります。

2008年の北京オリンピック、8月8日に始まりましたね。中国語で“八”は末広がり縁起が良いというので。無神論・共産党がやるのに、そんなことするんだなと思いつつながら。

あの北京オリンピック、柔道100キログラム超級で金メダルを取った選手に石井慧（いしい さとし/1986-）という選手がいます。今、総合格闘技で活躍していますよ。国籍、クロアチア人になりましたね。彼は茨木（いばらき/大阪府）の出身でね、大阪の清風中学出てます。

彼が金メダル取った時、マスコミが殺到してインタビューしました。

「石井さん、金メダルおめでとうございます。どうですか？金取って。」

その時、彼がこう言ったんですね。「斉藤先生と比べたら、屁の突っ張りにもなりません。」

これが一斉にマスコミに流れて、どういう意味やと。斉藤先生のしごきというか、特訓はそんなにも過酷だったのか？ それとも、金メダルの価値は今までの練習と比べたら薄っぺらいものかと言いたいのか？ それにしても、みんなの応援で取れた金のことを屁以下やと。ちょっと暴言じゃないかな。ちょっとひんしゆく買うんじゃないかな。もう少し言葉選んだ方がいいんじゃないかな。それで、空気読めない選手だとずいぶん叩かれたんです。

師匠の斉藤仁（さいとう ひとし/1961-2015）さんは、北京よりも前のソウルオリンピックで金メダル取ったんです。重量級で。実はソウルオリンピックの時、日本の柔道は惨憺たるもので、全階級で金メダルゼロ。柔道は日本のお家芸ですよ。ところが、全階級で金メダルゼロ。最後に残ったのが重量級で、もう日本柔道界トップが「何が何でも金取って来い！」また、日本国民にもそういう声があったことでしょう。そんな圧力の中で、斉藤仁が金を取るんです。オリンピック2大会連続で。

「日本中のそのプレッシャーを背負いながら、あの金を取った斉藤先生と比べたら、私が背負っていたようなプレッシャーなんて、屁の突っ張りにもなりません。」

実は、師匠を立てるために謙遜の意味で言ったんです。

ところが、マスコミが前後の文脈を切り離して、その発言の部分だけ切り取って、「金メダル取った直後にこんなこと言ってる。」“屁の突っ張りにもなりません”で切って、それで暴言ということになってしまったのですが、彼は立腹してましたね。「ああ、そんな風に編集するんですか。確かに言いました。斉藤先生と比べたら、屁の突っ張りにもならない。」

でもそれは、斉藤先生へのリスペクトの思いを言ったのに、いつの間にか意味が変わっている。

聖書の解釈をする時もこれがすごく大事で、前後の文脈を切り取って、“ここにこう書いてある・あそこここにこう書いてある。”これを無理やり結び付けて、“こうも言える・ああも言える”と読んで行ったら、これは聖書を読んだことにならないんです。聖書の解釈というのは、文脈で解釈する必要がありますね。

そしてね、基本的には字義通りに読む必要があります。つまり、14万4千人と書いてあったら、それは文字通り14万4千人なんです。イスラエルと書いてあったら、それは教会のことではなくイスラエルなんです。バビロンと書いてあったら、実際にバビロンという町が再建されるということなんですよ。

ヨハネの黙示録は、キリストの弟子ヨハネが島流しにされたパトモス島で書いたのですが、彼が考えている意味で解釈しないと、“ああも解釈できる・こうも解釈できる”なら、自分が読みたいメッセージを勝手に投影してるだけになってしまうんですね。

今まで25回。ほ～、そんなに経ったかと。徐々に“ざっくり”から“じっくり”に変わりつつありまして、中々前に進まないのですが、今日はヨハネの黙示録14章前半を文脈で見たいと思います。その前に復習をしたいと思います。あまりにも前回と開いているので。

人類は、ある時から7年間の患難時代という恐るべき時代に入ります。患難時代の前に“携拳（けいきょ）”と言って、イエス・キリストが空中までやって来て、本当に救われているクリスチャンだけを全員天に引き上げます。だから、クリスチャンたちが地上からいなくなる瞬間が起きます。これは患難時代の前です。

携拳について3つのことが言えます。

①いつ起こるか誰も知らない。②それは患難時代の前。③それは確実に起こる。

携拳の後に7年間の患難時代があるのですが、前半3年半と後半3年半に分けることが出来ます。後半3年半に入るちょうど中間時点で、反キリストと言われる人物が自らを神と宣言します。そして、前半とは比べものにならないような恐るべき時代が始まりますが、その恐るべき時代について、特に時系列で書いてあるのが黙示録15章と16章なんです。

今日見る14章は、後半3年半に起こることを、ダイジェスト版で7段階の宣告をもって説明していると考えていいと思います。後半3年半はどんな時代展開をするのかを、7つの段階で説明している箇所です。しかし、7つ全部やるには1時間ではとても時間が足りないので、今日は7つのうちの前半3つを紹介し、次回に後半4つを一緒に考えたいと思います。

7つの宣告のうちの3つを今から見ますが、1番目だけ時間通りじゃないんです。2番目から7番目までは時間順番・時系列に並んでいるのですが、1番目だけは患難時代の最後、イエス・キリストの地上再臨の後で起こることが描写されている。後半3年半に起こることを7段階で説明しますが、ゴールに起こることを、まず最初に持って来ているんですね。なぜそんなことをするのか？ 読者を励ますためです。

13章には誰が出て来ましたか？ 海から出て来る獣、すなわち反キリスト。そして、地から出て来る獣、すなわち偽預言者。この反キリストと偽預言者のコンビネーションで、反キリストの数666を持ってない者は、誰も売ること買っても出来ないようにした。じゃあ、いったいどうやって生きて行ける？ この時代に生きている人たちは、生きた心地がしないと思いますよ。その人々に向かって、或いは読者に対して、“しかしながら、これら悪の三位一体は必ず失敗します。ゴールは究極のハッピーエンドです”ということを最初にバーン出すんですね。

昔、福音集会でもお話したことがあると思いますが、長男がまだ小学生の時、ものすごく怖がりだったんです。ま、今でもそうですよ。怖がり。夜トイレに行く時、いつも歌いながら行きました。静かにトイレに入るのが怖かったのでしょう。何か音を鳴らしながらやってたんですけど。

ある時、小学校の夏休みの宿題に読書感想文の提出があって、課題図書が確か『原爆のこどもたち』。あの原爆で生き残った子供たちの中にも、大やけどをしてケロイド状態になって。表紙が写真ではなくて絵だったのですが、絵であったとしても恐ろしいというね。で、怖がりの子は本文読むまでもなく、表紙の恐い絵を見た瞬間に（顔を背けて）「怖い！怖い！こんな見たら晩寝られへん。読みたくない！見たくない！」でも、宿題だから読書感想文出さないといけな。基本的に真面目な子です。彼がしたのは、一番最後から読むということでした。

一見怖そうに見える本。でも最後を読んで、そのラストがハッピーエンドなのか、最後までしんどい話なのか。ゴールは主人公が幸せなのか、みんな笑顔で笑ってるのか。最後がハッピーエンドなら、途中がしんどくても乗り越えていくことができます。なぜなら、読み進めば読み進むほど、ハッピーエンドに近づいて行くことになるからです。

患難時代の後半3年半は、後ろに行けば行くほど恐ろしいです。
15章と16章には“7つの鉢の裁き”が出て来て、鉢をぶちまけるたんびに より恐るべき展開が待っているのですが、究極のゴールにはキリストの地上再臨が待っている。
キリストの地上再臨の時どんなことが起こるのか、というのが7つの宣告のうちの1番目です

ついでに言いますと、2番目は後半3年半の時、御使いが永遠の福音を宣べ伝えてくれる。福音で人間が宣べ伝えるんじゃないの？ 後半3年半では、御使いが永遠の福音を宣べ伝える。

3番目。大バビロンという大都市が再建され、反キリストの政治的中心都市になりますが、それが滅びる。今日はこの3つを、順を追って考えていきたいと思います。

1) 地上再臨の後に起こることは何か。今日は大部分の時間をこれに割くと思います。

黙示録 14:1

また私は見た。すると見よ、子羊がシオンの山の上に立っていた。また、子羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。

また私は見た。この言葉はよく出て来るんですね。黙示録でまた私は見たと出た場合、“今までとは違う話題に転換した。今まで読んでいたこととは違うことを語ろうとしています” という意味です。この1節の情報から、2つの理由によって、これが地上再臨の時・地上再臨の後であることが分かるんですね。

シオンの山の上に2種類の人立っています。

◆1つは子羊と呼ばれているイエス・キリストです。シオンの山はエルサレムのことで、その上に立つのは皆の注目を浴びることです。今世界の最高峰はエベレストですが、千年王国が始まる前にエルサレムは隆起して、世界で一番高い山になるからです。

シオンの丘・シオンの山と言った時、狭い意味では、エルサレムの中のある丘のことですが、シオンと言った時は、エルサレム全体を指すと考えていただいてもいいです。

もっと広い意味では、シオンはエルサレム全体を指す時にも使われています。

皆さんは“シオニズム”という言葉聞いたことあるでしょう？ 英語ではシオン・イズム(シオン主義)。シオンはイスラエルの土地のことで、「ユダヤ人はユダヤ人の先祖の土地に帰ろう」という主義をシオニズムと言うのです。シオンを狭い意味で捉えるとエルサレムのこと。エルサレムの山の上に子羊(イエス・キリスト)が立っている。黙示録5章で、天の至聖所の御座におられた方ですね。

天におられた方がシオン/エルサレム という地上の山の上に立っている。ということは、この方は天から下りて来た。つまり、地上再臨されたことが分かるのです。

◆2つ目。十四万四千人の人たちが子羊と共に立っている。

十四万四千人は7章で既に紹介しましたが、イスラエル12部族から1万2千人ずつ選抜された選びの器たちで、14万4千人のユダヤ人伝道者です。

彼らは全世界に散って行って、御国の福音と言われている福音を、患難時代を通して宣べ伝える。なので、彼らは集まっていたらダメなんです。バラバラに、神が派遣する場所に行って伝道活動してないといけないのですが、ここでは14万4千人がシオンの山の上に全員集合している。

なぜでしょう？ 地上のあらゆる国々に宣べ伝えるというミッションが終了しているからです。それで彼らは集まって、子羊と一緒にシオンの山の上に立っている。だから、これは地上再臨の後のエルサレム。荒廃した荒れ果てたエルサレムというよりも、非常に美しいエルサレムだと言えます。

さて、この14万4千人には7つの特徴があります。

7つの特徴①、その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。

患難時代の大部分の人たちの額には何が付いているでしょう？ 666が刻印されています。

ところが、この14万4千人の額には、子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。

キリストと、キリストの父なる神様の名前が印として付けられていた。

この印のゆえに、彼らは7年間殉教しません。1人も途中で命を落とすことなく最後まで生き延びます。1人も失われることなく、14万4千人のユダヤ人伝道者が全員集合する。彼らはそのまま千年王国に入っていきます。非常に大きな報いのうちに、千年王国で素晴らしい働きをしましょう。千年王国は患難時代の後です。

7つの特徴②、天での大合唱の賛美を学ぶことができる。

2.また、私は天からの声を聞いた。それは大水のとどろきのようであり、激しい雷鳴のようでもあった。しかも、私が聞いたその声は、豎琴(たてごと)を弾く人たちが豎琴に合わせて歌う声のようであった。

3.彼らは御座の前と、四つの生き物および長老たちの前で、新しい歌を歌った。

しかし、地上から贖われた十四万四千人のほかには、この歌を学ぶことができなかった。

この14万4千人はシオンの山の上にあります。それは地上の山です。彼らは地上にいるんです。地上にいるけど、天で大オーケストラ・大合唱の賛美を聞くことが出来た。

では、天で豎琴の伴奏で合唱している3節の彼らとは誰でしょう？

天で賛美している人たちだから、既に天に行っている人たちです。

14万4千人は地上にいてる。しかし、患難時代の直後、彼らは天にいる声の歌を聞いている – ということだから、恐らくこれは、患難時代に殉教した人たちだと思います。

患難時代に殉教した人たちが、天で地上再臨を見届けて、大きな喜びのうちに賛美をしている。

しかし、地上から贖われた十四万四千人のほかには、この歌を学ぶことができなかった。

なぜでしょう？ 患難時代に殉教した人たちの経験に裏付けられた賛美なら、それを本当に理解できるのは、患難時代の一部始終 全てを知っている信仰者たちだけです。

患難時代の途中でイエス・キリストを信じた人ではなく、患難時代の頭から、神によって起こされた 14 万 4 千人は、この 7 年間 地上で起こったことをつぶさに目撃しています。
こんなことがあって、あんなことがあって、そんなことがあって…。

そして、自分が宣べ伝えた言葉を信じた人たちがたくさん殉教するのを目にしたのではないのでしょうか。7 年間にあったことをもって、患難時代の中でも神がなさった働きを深く知り得るのは、生き証人の 14 万 4 千人だけであった。だから、彼らだけが学ぶことが出来た。そういう意味だと思います。

7 つの特徴③、これはちょっと解釈が難しいんですが。

4.この人たち (14 万 4 千人) は、女に触れて汚 (けが) れたことがない者たちで、童貞である。

これは、色んな注解書を見ると色んな解釈が出て来るのですが、多くは、この女は後に出て来る大淫婦 (だいいんぷ) のことだと書いてあります。この段階ではまだ出て来てません。
ここまでで出て来ている女はイスラエルのことです。
先ほど申し上げたように、“聖書は字義的に解釈する” というのを、まず大原則にするのが安全運転だと思います。つまり、本当のウーマン/ 女性のこと。

旧約聖書を見ると、“〇〇に触れて汚れる” という言葉が頻繁に出て来る書簡があるんですね。レビ記。
“〇〇に触れて汚れた場合、清めを受けなさい。” “死体に触れた者は汚れる。” “漏出を病む者に触れた者は汚れる。” “汚れた動物を食べた者は汚れる。”
“〇〇に触れた者は汚れるので清められなさい” ということが繰り返し出て来るのです。
レビ記は、ユダヤ人の霊的リーダーであるレビ人の中の 選び抜かれた祭司階級の人たちについて、特に厳しい基準が勧められています。この人たちは霊的リーダーとしての役割があったと思います。

そして、童貞であるということは独身男性。ここは文字通り、“ユダヤ人独身男性の伝道者 14 万 4 千人が 7 年間の患難時代、ありとあらゆる迫害を乗り越えて福音を宣べ伝えていた” と解釈するのが字義通りかなと。そのことが理屈に合っているように思うんですね。

聖書では結婚は祝福です。結婚を禁じたり、悪いとか駄目なことのようには言う所はないと思いますが、この危急の時・患難時代、恐らく 14 万 4 千人は、遣わされて活動している国々の当局にとって、最も目障りな人たち。暗殺者リストのトップに来るような人たち。「反キリストが言っていることは間違いだ！」と宣べ伝えている人たち。「奴の正体は悪魔だ！」と暴く人たちです。
いつも命を狙われていると思いますねえ。家庭を持っていたら、守るべき妻や子供がいたら、彼らは人質になるのではありませんか？

結婚そのものは、一般的に祝福の神のプランです。しかし、7 年間の患難時代は非常に特殊な時代なので、そのような時に家庭を持つならば、14 万 4 千人の男性たちは、自分たちの家庭への責任を果たすことが限りなく難しい。家にいて、子供たちとじっくり時間を過ごすなんてことは出来ない。
この人たちは例外中の例外で、この時代は、家庭を持つことはハンディキャップになる可能性が高いと思います。なので、彼らは独身男性。そして、生涯 キリストを宣べ伝えることに専念する。
これが 3 番目の特徴です。

7 つの特徴④、4.彼らは、子羊が行く所、どこにでもついて行く。

彼らは、神と子羊に献げられる初穂として、人々の中から贖い出されたのである。

患難時代、反キリストに従うのは楽な道。本物のキリストに従って行くのは、犠牲なしには出来ない道。そのような時代の中、子羊が行く所、どこにでもついて行く。いつでもどこでも子羊について行く。

キリストが「行こうぜ！」と誘ったら、どんな状況の中でも「はい！ここにおります！」とついて行く。これは、人間的には安楽な生活を手放していくということです。

この日本にも、多くの宣教師たちが母国を離れて福音を伝えてくださいました。私たちがタダで聞いている福音は、そのために誰かが大きな犠牲を払って伝わって来たのです。

しかし、患難時代にそれをするというのは一層凄まじいことです。

人間は誰かに・何かに自分をささげる時、ただただ自分のために生きているよりも輝くものですね。

スポーツ選手は栄冠のために競技に自分自身を捧げますが、彼らは子羊に自分を献げるんです。

イギリスの医療宣教師にヘレン・ローズベアという人がいます。

彼女はコンゴで医療宣教をしていたのですが、コンゴが内乱になり、1964年 反乱軍に捕まって虐待を受けるのです。「政府のために働いていたのか?!」と難癖つけられて。

コンゴの人々のために医療宣教で仕えていたにもかかわらず、捕虜となって虐待を受けたんですね。

彼女は“なぜ、こんな目に遭わなければならないのか”と自己憐憫に陥りました。

彼らは、なぜこんなことをするのか？ この苦痛に耐えるだけの価値があるのか？ この苦痛そのもの・苦痛を与えるという行為そのものに、どんな意味があり、どんな価値があるのか？－何の意味もない。何の意味もないことの犠牲を、私は今受けているのか？－そう思うと、どんどん自己憐憫になって行った。

しかし、イエスに従う犠牲について考えていた時、神から“質問の方向性を変えよ”と促されたような気がしたんですね。そして、“この虐待行為そのものに意味があるのか？”という問いをすることをやめ、この苦痛そのものにどんな価値があるのかを問わず、その代わりに“キリストには、この犠牲を献げてもついて行くだけの価値があるのだろうか？”と問いを変えたのです。

私が実際に身に受けていることは実にナンセンスだ。キリストはこの犠牲を献げる価値がある方なのか？ ある方だ！ なぜなら、キリストこそ、罪人の私のために来なくてもいい国に来、掛からなくてもいい十字架に掛かり、受けなくてもよい神の裁きを引き受けて、私を救ってくださったから！

14万4千人は、いつでもどこでもキリストの行く所について行った。

患難時代にそれをすることは、彼らにとって多くの犠牲を払うことでしたが、彼らは自分自身をキリストに献げるささげ物にした。

イエス・キリストを信じたらどんな良いことがあるだろうか、という観点で聖書に近づくのもいいかもしれませんが、人間が造られた本当の目的は、神からご利益を頂くことではなく、神の栄光を表すためだと言うのです。彼らは、神と子羊に献げられる…。キリストに自分自身を献げることによって、イエス・キリストこそ、誰よりも何よりも価値あるお方なのだと証したんですね。それが彼らの特徴でした。

7つの特徴⑤. 4. 献げられる初穂として、人々の中から贖い出されたのである。

初穂とは、そのシーズンで最初に実った作物のことです。初穂が貧弱なら、続いて実って行く物も全部貧弱です。しかし、初穂が豊作で豊かな物なら、続いて実る物もとっても期待できるんですね。

初穂はこれに続く人々がいるということを示唆しています。

彼らは患難時代の最初に初穂として救われましたが、患難時代の最後・キリストの地上再臨の2日前に、ユダヤ人の1/3が悔い改めて、何百万人というユダヤ人たちがイエスをメシアとして信じます。

その先駆け、初穂がこの14万4千人です。

5. 彼らの口には偽りが見出されなかった。彼らは傷のない者たちである。

7つの特徴⑥. 彼らの口には偽りが見出されなかった。

この偽りという言葉には定冠詞が付いていて、一般的な“嘘つかなかった”という意味ではなく、“あの偽りを口にしなかった”という意味です。特定のあの偽り。

黙示録 14 章で直前に現れた偽りとは何か？「海から上って来る獣（反キリスト）こそメシアだ！キリストだ！」と偽預言者が嘘をつきます。

その嘘に一切関わらず妥協せず、ド直球の真っ直ぐの福音を宣べ続けた男たち。反キリスト一色の世の中で、「彼は悪魔から来たものだ！」と言うことはひんしゅくを買うことであり、非常に危険なことです。少しの妥協もなく真実を暴いて、イエスがメシアであることを宣べ伝え続けた人たち。

それが 14 万 4 千人。6 番目の特徴です。

7つの特徴⑦. 彼らは傷のない者たちである。

旧約聖書で、神に献げるいけにえの条件は傷のない物。傷物は駄目。傷があると不完全ということです。そして、傷がないというのはしばしば、受け入れられているもの・義とされているものという文脈で語られることが多いんですね。すなわち、彼らは完全な義人です。彼らは傷がなかった。

しかし間違っていないのは、この人たちは初めから聖人君子で、生まれた時から何も罪がなかったと解釈してはなりません。彼らもアダムの子孫なのです。彼らも生まれた時、先祖代々引き継いでいる・転嫁されている罪、原罪という罪の性質があるんですね。

にもかかわらず、神がご覧になった時、この 14 万 4 千人には傷がなかった。

それは、彼らが完璧な人間という意味でなく、イエスをメシアにしているがゆえに、キリストの贖いのゆえに義とされている。なので、私たちもその立場を頂くことが出来るのです。

14 万 4 千人だけが傷がないのではなく、後に続いて行く者も、キリストの救いに与るがゆえに、みんな傷のない者として受け入れていただけるのです。

第 1 の宣告は地上再臨の後に起こることは何か。ゴールに何が待っているか。

シオンの山の上に、メシアと共に 14 万 4 千人の人たちが立っている。彼らはそのまま千年王国に入る。この究極のゴールをまず見据えた上で、後半 3 年半に起こることが 6 段階で説明されているのが 14 章です。

では、第 2 の宣告を見ていきましょう。後半 3 年半、御使いが永遠の福音を宣べ伝えてくれる

6. また私は、もう一人の御使いが中天（ちゅうてん）を飛ぶのを見た。彼（御使い）は地に住む人々、すなわち、あらゆる国民（くにたみ）、部族、言語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。

中天、何かお分かりですか？ 簡単に言うと、お空のど真ん中です。低空飛行じゃない。天の真ん中。つまり、誰からも見える所を飛んだ。スレスレの所なら、高層建築物に挟まれて、ビルの谷間みたいな所の人には見えないかもしれませんね。しかし、中天を飛んだ。頭の真上を飛んだ。

福音はゴスペル/グッドニュースと言いますが、ギリシア語では“ユーアンゲリオン”と言います。

エヴァンゲリオンはここから来るんですね。エヴァンゲリオンで使徒たちは悪者ですが、アレ見るとムチャクチャになるので、見てもいいけど、ほどほどにお願いします。

ユーアンゲリオン。素晴らしい喜びの訪れということなんですね。

福音は基本的に 御使いが伝道・伝えるのではなく、人間に委ねられている使命なんです。なぜなら、福音の中心主体は“イエス・キリストという罪の無い 人となられた神が十字架に掛かって、人間の罪のために身代わりに裁かれた。そして墓に葬られた後、3日目に死を突き破って復活した”ということです。この“十字架・葬り・3日目の復活”は人間のためになさったことで、墮落した御使いのためではないのです。

何かを紹介する時、自分でも経験していることなら、「これ、素晴らしいですよ」と紹介できるんじゃないですか？ 御使いは、人間のための十字架とよみがえりを自分自身が経験できないので、宣べ伝える資格がない。というか、ある意味 自分が経験したこととして、それを伝えることが出来ないのです。

この患難時代、誰が福音を宣べ伝えてくれるのか？ 14万4千人です。14万4千人のユダヤ人（人間）が御国の福音を語ってくれるのですが、それとは別に、後半3年半では天使（御使い）が永遠の福音を宣べ伝える。これは字義通りに解釈するしかありません。

天使は、十字架も復活も自分のためにという経験が出来ないのに、なぜ宣べ伝えることが出来るのか？ 実は、永遠の福音の内容を見ると、十字架も復活も入ってないんです。何と書いてあるか？

7.彼（御使い）は大声で言った。「神を恐れよ。神に栄光を帰せよ。神のさばきの時が来たからだ。天と地と海と水の源を創造した方を礼拝せよ。」

ここには十字架も復活も書いてないじゃないですか。しかも「救われよ！」という招きではなく、「神のさばきの時が来た。」これのどこが福音ですか？ 福音なんです。

旧約聖書のヨナ書。木曜日のここの講演会で取り上げられましたね。ヨナはイスラエルをやがて滅ぼそうとするアッシリアの首都ニネベに行って、「間もなく裁きがある！」とメッセージしたんです。信じたら救われるとは一言も言ってません。ただ 神の裁きがあるという言葉聞いた時、震え上がった彼らは自発的に悔い改め出したのです。

御使いたちは、自分が経験した者として「この救いに与りなさい」とは言えないかもしれない。でも「神のさばきがある！」なぜこれが福音と言えるのか？「神の裁きなんかない」と反キリストが言っているからです。反キリストが言っていることを正反対、真っ向から否定する。それは信仰がなければ出来ないことです。

永遠の福音というのは、キリストが十字架に掛かる前・旧約時代から、異邦人も信じることが出来る福音です。永遠の昔から変わらない内容です。と同時に、この内容が人の永遠を決定します。その意味で、永遠の福音ということが出来ると思います。

ということで、患難時代の人々は2方向から福音を聞きます。14万4千人のユダヤ人から聞き、また、福音を聞いて信じた人たちからも聞く。人間から福音を聞く。同時に後半3年半に、もう1人の御使いと言われていた天使が永遠の福音を聞かせる。なので、聞かなかったという人がいない。少なくとも彼らは2度聞きます。福音を。それが第2の宣告です。

では、第3番目の宣告。大バビロンという大都市が再建され、反キリストの政治的中心都市になるが、それが滅びる。今日はここで終わります。

8.また、その御使いの後にもう一人、第二の御使いが来て言った。

「倒れた、倒れた、大バビロンが。御怒りを招く淫行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた都が。」

今 世界がどういう流れに向かって進んでいるかということと世界統一政府です。

この間も YouTube で話してましたが、今世界中を混乱に陥れ、東京オリンピックを無観客にする新型コロナウイルスについては 2 種類の発生説があります。

○自然発生説。コウモリが何かの動物を介して人間に移した。コウモリから人間に直接移ったのではないことはハッキリしています。というのは、コウモリの体内にあるコロナウイルスの型/構造と、COVID-19 ウイルスの構造が違うからです。だから、コウモリから他の動物に移った時に変異があった。

変異したウイルスが人間に移って、それで世界中にこんなに蔓延してしまったという説。

WHO が 4 月に、多分これが有望だろうと言っています。

○武漢ウイルス研究所流出説。これについては前々から言っている人たちがいましたが、陰謀論者とか「おめでたいんじゃない？」とか「そんなのあり得ない」と言われて来たんですね。

ところが今、一流出したのではないのか？武漢研究所で、自然界にあったコロナウイルスに強力な感染力を与えるように作り替えた物が、管理不十分で、研究所の外にこぼれ出てしまったのではないのか？それがあつという間に世界中に広まったんじゃないのか？－この説が勢いを増している。

実は、ある人物－ニコラス・ウェイド（1942- ）の考察論文によって、世界の意見の潮流が変わったんです。私は彼の『背信の科学者たち』という本を持っていますが、めっちゃ面白いですよ。

サブタイトルは『論文捏造はなぜ繰り返されるのか？』

科学者は皆、研究論文を真面目に・正確に・正直にやっているという前提ですが、彼は歴史上の様々な科学者のデータを見ながら「それはあり得ない。」

例えば、「メンデルはエンドウ豆の法則でデータに手を加えた形跡がある」と言って立証していくんです。

ま、イヤな奴だなと言えばイヤな奴なんですけどね。ニュートンについても難しくせ付けてます。

“「スゴイ！大成果をもたらした！」と、当時の科学の世界でセンセーショナルに取り上げてもらうために（その大成果は今でも有効なんです）、データにちょっと手を入れてるでしょ！”ということを追求してる本。読んでてね、嫌な奴だなあと思いつつも、こういう人、絶対要るなと思いました。これがもしあつたら、STAP 細胞の問題はなかったでしょう。

彼は『Science/サイエンス』と『Nature/ネイチャー』という 世界で最も権威ある二大科学論文雑誌の科学ジャーナリストで、『ニューヨーク・タイムズ』で一番人気のサイエンスコーナーの編集長です。

その人物が言ったんですね。「武漢流出説に一定の信憑性があることを認めざるを得ない。」

間違っちゃいけないのは、一定の信憑性があることを認めるとは言ったけど、絶対にそうだと断言するわけではない。絶対だと言うには決定的証拠が弱い。だから、絶対間違いないとは言えない。

しかし…と言って、彼は話を進めるんですね。

自然発生説にも決定的証拠が無い。もし何かの動物を介して人間に移ったのなら、その動物がもうそろそろ発見されてもいいんじゃないの？ なんぼ捜しても、コウモリから移って、コウモリと人間を媒介するつなぎ役の動物が出て来ない。自然発生説にも決定的証拠が無い。

両方とも決定的証拠が無いのに、自然発生説だけを多分これで間違いないとなぜ広めたんですか？

彼は理由を 2 つ挙げてます。

◆武漢流出説を最初に言い出したのがトランプ大統領だったから。

マスコミはトランプ大統領が大嫌いです。彼の再選を止めるために、彼が成した成果は殆ど報道せず、彼の発言は、先程の石井慧選手のように、前後の文脈を切り離してムチャクチャな発言にし、ハンター・バイデンのことをツイッターやフェイスブックで書いたら、アカウント永久凍結してしまっただけです。マスコミは“科学的に実証されたからおかしい”というのではなく、自分たちの気に入らない政治家が言っているのを、“これは間違っているんだ”と葬り去って来ました。これは あってはならないことです。

◆ウイルス学者たちの問題。

ニコラス・ウェイドが暴いたのですが、アメリカのウイルス感染症予防センター所長ファウチ、彼が勤務しているそのセンターから、中国の武漢研究所に資金が投入されていることが判明したんです。

なぜアメリカのウイルス研究所が、中国の武漢研究所にお金を投資したのか？

人類はこれから大変な感染症に悩むことになるだろう。しかし、それが爆発的に広がった後で対策を取っても遅い。そこで、感染力の強いウイルスを人為的に作り、それを使って、将来叩きのめせるものを作ろう。そのためには、まず危険な物を作らないと駄目。アメリカ国内ではその許可が下りないので武漢に頼んだら？

しかし、それが明らかになったら、“ウイルス学者、ナニしてんねん！”と、ものすごいバッシングが起りますね。そこで、ウイルス学者たち自身が「自然発生説だ」と言ったんだけど、科学的にフェアな立場で言ったんじゃないで、自分たちに責任追及が及ぶのを恐れて蓋をしたんじゃないの？ - ということをニコラス・ウェイドが暴いたんですね。そこからです。流れがガーンと変わり出した。

もし自然発生なら、中国は春節の時、武漢から 600 万の人たちを止めなかったということで責任を負わなければならない。もし人工流出なら、ずさん管理のゆえに中国は責任をとらなければなりません。つまり、どちらの説に立ったとしても、中国は責任を取らないと駄目ですよ。しかし、責任取りません。責任を取るということは賠償金を払うことです。100 兆ドルと言われてますね。もし中国がそれをやったら国家破綻です。なので、どんなに動かない証拠を突き付けても、「俺がやった」とは言いません。

しかし、世界の潮流は“中国が問題じゃないの?!” ということ、国際世論が“アンチ中国”で、もう出来上がっているじゃないですか。つまり、この問題の解決は落としどころがないんです。

中国は絶対に認めない。世界は中国がやったと言ひ募る。

では、このままずっと進んで行ったらどうなるか？ ただ対立が続くだけ。

この中国のあり方を訂正させるためには、同じことが起こらないようにコントロールするためには、世界がバラバラに動いて説得するだけでは駄目です。

世界が一つの政府となって、大きな協力体制を作って、中国と言えども抵抗できないような政治的システムを作って、全人類に影響を与えるような大問題については解決していく以外にはない！ という方向に進んでいます。世界統一政府の方向に向かって進んでいると思います。

黙示録を見ると、世界には統一政府が現れますが、この統一政府は失敗します。

そして、10 か国にばらけるんですね。ばらけている時・ちょうど患難時代の前半と後半の中間で反キリストが暗殺されますが、復活します。復活後、10 か国のうち、反キリストに賛同しない 3 つの国のブロックを潰します。合計 7 か国/7 つのブロックで世界を支配することになるでしょう。

その時の中心はワシントンじゃない。バビロンだと言うんです。

大患難時代（後半 3 年半）、世界の中心はバビロンになります。バビロンてどこ？ イラクです。

今イラクの首都はバグダッドです。バグダッドから南西の所に、昔バビロンという国（町）があったのですが、今は小さな村なんですね。そこに昔、有名なバベルの塔が建っていました。やがて患難時代に、このバビロンが再建され、そこに反キリストが入り、政治的司令を全世界に向けて号令するでしょう。

しかし、彼が作ったそのシステムも倒れます。滅亡が運命づけられているのです。

8.「倒れた、倒れた、大バビロンが。」2度にわたって「倒れた、倒れた」と言っているのは、バビロンの崩壊が確実に起こることを強調しているのだと思います。

今イラクが世界の中心になると言ったら、「はあ？」「21世紀は中国の時代じゃないか！もしかしたら人口的にインドの時代になるんじゃないか？」と思っているでしょ。聖書を見るとイラクなんです。イラクのバビロンです。そこに世界の政治・経済・宗教のセンターが出来ます。

この詳しいことは17章18章に出て来ますが、皆さん、私たちクリスチャンが地上にいる間にそうなるかどうかは分かりません。でもそうなったらね、「そういえば、アイツ、そんなこと言うてたなあ」て、絶対思い出してくださいね。もう今のうちに言うときますんで。

バビロンが世界の中心になる。シーア派とスンニ派が相争ってどうにもまとまりのつかない、アメリカの力を一気に弱めたあのイラクのバビロンです。

さて、これが聖書の預言で、今日は7つのうちの3つをご紹介します。

革命は何によって起こるかという、基本的には情報ではないかと思うんですね。

全ての革命は情報革命です。

例えばフランス革命は、フランスの王様という雲の上の神に近いと思われていた人が、その実態は超贅沢で・無能で・無策な奴でしかないということが、当時発達し始めていたマスコミによって一般民衆に知れ渡り、人々の怒りと、抵抗したら勝てるんじゃないかという希望を抱かせて起こったんです。

フランス革命は、国民が知ってはならない情報を知ることによって引き起こされた革命です。

産業革命。それまで仕事というのは、人間が、職人のように心を込めて一生懸命仕事に打ち込むことによって、経済は発展し・生き甲斐を感じることができ・国は繁栄すると言われていました。

だけど、蒸気の使用をすれば人力の何千倍の動力を手に入れることが出来るという情報が分かった時、それまでの職人制度や家内制手工業は全部吹っ飛んで、国策会社や大企業・動力の時代が変わっていくんですね。産業革命も情報によって変わったんです。

明治維新。これは維新革命と言っていいと思いますよ。このまま鎖国を続けて我々が何もしないなら、隣の大清帝国が阿片漬けにされて阿片戦争でボッコボコにされたように、日本もボッコボコにされるぞという情報が当時の侍階級に知れ渡って行った時、何とかせねばということで維新革命が起こったんです。

革命は全部、情報によって引き起こされるものです。私は、聖書は神が人間に提示している情報だと思います。しかも、この情報には賞味期限がないのです。時間と共に古びて“ああ、間違いやった！”て、そんなんじゃない。実に聖書ほど叩かれ・非難され・破かれ・焼かれ・疑われ・攻撃されて来たものはない。

にもかかわらず今日に至るまで、世界のベストセラーとして生き残っているのはなぜですか？

聖書に預言されている言葉が、外れてばかりではなく、実現してばかりなので、認めざるを得ないからです。歴史の審判を受けて、これこそ揺るがない・間違いのない情報であると判定を受けているのが神の言葉です。

この神の言葉を前もって聖書預言という形で知ることによって、では、私はいかに生きるべきか。この世が終わりに近づいているのなら、私は必ず神の前に立つことが決定付けられているのなら、今生きている間にしなければならぬことは何か。

誰もが恐れなく神の前に立つことが出来るように、キリストが救い主となってくださったのです。今は14万4千人が宣べ伝えているのではなく、私たちが宣べ伝えています。この恵みの福音の時代、日本人によく分かる日本語で話されています。

いかがでしょう。あなたのための救い主がイエス・キリストです。ぜひ、このイエス・キリストを信じてください。そしてまた、これからも続きを見て行きますので、よろしければお付き合ってください。最後までご清聴ありがとうございました。

^^ ^^

- * 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』
- * 動画は YouTube 「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」
- * ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約 15 分) もぜひどうぞ。YouTube もあります。
- * YouTube 「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi